

中島 聡 牧師

「このようにキリストの名がまだ知られていない所で福音を告げ知らせようと、わたしは熱心に努めてきました。」ローマの信徒への手紙一五：二〇

《自己紹介の続きです》 私は母教会の大阪西野田教会の後、福井県の如鷲教会に遣わされました。福井県は真宗王国と言われるだけあって、県全体で日本キリスト教団の教会が七つしかない、いわば“キリスト過疎地”でした（ちなみに神奈川県では教団の教会は百七あります）。教会の幼稚園があるだけで、ミッション・スクールも一つありません。とにかく伝道が困難な地です。しかし、それでもキリスト教会が建てられ、キリストの救いが宣べ伝えられてきました。主の宣教命令に忠実な僕がおられたからです。

福井県に鯖江という市があります。めがねのデザイン、製造で有名などころですが、一九九三年、アメリカの宣教団体から一人の宣教師が鯖江に遣わされました。理由は、それまで、鯖江市に教会が一つもなかったからです。

《二〇一五の伝道と平和を求めて③》 宣教師の名は、ダビデ・マーチン先生です。私がお会いしたころは、もう高齢になっておられましたが、すらりと背が高く、笑顔がとても素敵で、如鷲教会の修養会

に説教に来ていただくと、とても力強く何時間でも福音についてお話しくださるような先生でした。とても聖書に忠実であり、信仰の厳しさにおいてはラング先生と同じものを感じます。ダビデ先生は、一九五一年に来日して以来、それまで教会が無かったところ、伝道困難と言われる地に九つの教会を建て上げられました。三五年の間、日本において宣教活動をされ、一九八六年に帰国、アメリカの教会で重用されておられたのですが、どうしても日本における伝道への熱意を捨て切れず、一九九二年に再来日、翌年には上述の通り、教会が一つもない鯖江市で開拓伝道を開始、見事に、鯖江キリスト教会を建て上げられたのです。ダビデ先生は二〇〇九年に召天されるまで懸命に伝道を続けられ、召されてもお、私の葬儀はいらない、そのかわりに天国凱旋記念の伝道礼拝を三回はしなさい」と厳命され、遺言通り講師が招かれ伝道礼拝が行われ、多くの鯖江市民が参列し、そこで救われる人も起こされたという事です。

かつて戦争をしたアメリカの宣教師が、日本人ですら手をつけなかった“伝道過疎地”に福音の種を蒔き、骨を埋めるまで日本を愛し、キリストの救いを宣べ伝えてくださったのです。まさに「主の平和」の力強さを教えられました。

《映画『ふうけもん』》 先日、ホーリネスの群の戦時下における「弾圧記念聖会」で、映画「ふうけもん」のプロデューサーの金テレサさんという方と出会いました。この映画は、「夜逃げ屋本舗」シリーズの俳優・中村雅俊と、「釣りバカ日誌」シリーズの栗山富夫監督がコンビを組んで編まれた映画で、出演陣も、哀川翔、浅野ゆう子、川相我聞、竹中直人、中村玉緒、藤村俊二などなど、豪華な顔ぶれで

す。ストーリーは、裏社会を生きてきた男が、宣教師を通してキリストに出会い、便利屋として身を立して直し、様々な人間模様にぶつかって行く中で、家族の再生に働きかけていくようになるというものです。今、教会ではこの映画の神奈川上映会のチケットをあらかじめ協力しようか程度に思っていたのですが、だんだん預かるチケットの数が多くなってきて、「はてさてどうしようか」と思い始めた頃、中村雅俊演じる主人公に回心の決心を与えた宣教師とは、あのダビデ・マーチン先生のことだったと知り、仰天驚きました。如鷲教会において一人の青年男子が救われるにあたって（福井で青年男子の受洗は奇跡なのです）、ダビデ先生の影響がとても大きく、彼はダビデ先生の末期に輸血で恩返しができたのですが、私も先生の尊い御芳に何かお返しができないだろうかと思っていましたので、「主よ、私がこの映画のプロデューサーに出会ったのは、このためだったのですか！」と驚きの内に示されました。この映画の感想を聞きますと、「家を出していたが家に帰る決心ができた」、「母と見に行きました。母はひさしぶりに心の洗濯ができたと言っていました。」、「うちの息子はひきこもりですが、この映画を見て帰りに私に言ってくれました。明日から頑張ると。」、「家族そろって見たい映画です。」など、人と人の間にあったかきものをよみがえらせてくれることが伝わります。家族の絆、人と人のぬくもり、とても小さくて、とても大切な平和、平安だと思えます。日本に骨を埋めてくださった一人の宣教師を覚えて、ぜひ、この映画を一人でも多くの人に勧めて、平和の伝道に繋がって参りたいと願います。教会でチケットを預かっていますので、よろしくお願ひします！